

## 生徒会発足

12月4日(木)、生徒会役員任命式が校長室で行われました。80年の歴史の重みを背にしながらの新しい生徒会執行部のスタートです。

生徒会長に選出されたのは2年A組の佐藤彩加さんです。生徒会長としての抱負を次のように語っています。

角南は昨年80周年を迎えました。生徒会長として81年目のスタートを切ることができ、嬉しく思います。

生徒会が発足して二つの目標を立てました。一つめは挨拶をしっかりとすることです。最近、ほとんどが暗いニュースばかりです。そこで、角南の元気な挨拶を通し、地域や社会に明るさの和を広げていきたいと思っています。

二つめは学校行事を充実させることです。角南の最大行事である角南祭や運動会を充実させるため、事前の準備をしっかりとしていきたいと思っています。また、それらを通して仲間とのつながりを強めていき、皆と一緒によりよい角南づくりを目指していきたいと思っています。

## 民謡を実演

角館南高校は平成20年度から21年度にかけて「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の研究指定校になっています。

これまで、1年生を中心に、総合学習の時間を利用して、生け花、イタヤ細工、歴史探訪、伝承館見学、民謡の実演などを行ってきました。

民謡に関しては12月18日(木)に、これまで練習してきた「長者の山」の実演が行われました。

民謡を選んだ目的は、角館を含む仙北地域には多くの唄が残されているにもかかわらず、なかなか触れる機会が少ない。高校卒業後に県外へ進学・就職する生徒も多く、そこで「秋田って?」と聞かれた際に「秋田民謡」について語るができるよう、なぜこの地域で民謡が盛んなのかという知識を学ぶとともに、実際に披露できる技術も身につけるために設定されたものです。

生徒は、踊り、太鼓、三味線、尺八、歌の5つのパートのいずれかを選択し、6名の民謡の専門の講師と先生方の前で立派に披露しました。1年生全員のパフォーマンスは迫力があり、生徒たちも改めて民謡のすばらしさを実感したのではないのでしょうか。



## 韓国との交流

1月20日(火)に韓国の明文高校の生徒15名、引率の先生3名が角南を訪れました。

これは、両国で共に学んでいる英語を通して交流を深めるものですが、本校からは5名の家族がホームステイの受け入れを快諾してくれました。

1校時に歓迎行事が行われ、伊藤高校教育課主幹、畠山学校長、石黒市長、明文高校団長の挨拶が行われました。

2校時には生徒の歓迎行事が行われ、両校校歌の演奏に続き、両校生徒の代表挨拶、記念品交換、伝統芸能の披露やアトラクションなどを行い、お互いに友好を深めました。

3校時は異文化理解をテーマに英語の授業、4校時は調理実習でちらし寿司を作り、日本の味を堪能してもらいました。

午後からは角館町を散策し、有意義な1日を終わることができました。

